

# 災救通信

令和3年  
3月1日  
第22号

発行

天理教  
災害救援  
ひのきしん隊  
北海道教区隊

逐次発行

**宣誓**  
我々は天理教災害救援ひのきしん隊員であります。一列兄弟の自覚に立ち、真実をもって救援活動にあたります。

## 冬季訓練 天龍支部隊

災救通信前号(21号)で報じたように今シーズンは空知地方を中心に大雪で、岩見沢市は例年の1.5倍と報道されている。こうした地域では少しくらいの豪雪では驚かないと聞く。通常の事、当たり前の事として生活をし、自然な助け合いがどの支部でも行われ、空知地方の北側に位置する深川市(天龍支部松下敏孝支部長)でも毎年、冬季訓練として支部災救隊(佐藤靖幸隊長)が中心となって10年以上、除排雪活動を実施している。

2月19日、支部災救隊長はじめ隊員達が拠点となっている天理教雨龍大教会へ集まってきた。大教会ロビーでは西垣定洋教区長が自らコーヒーを入れて下さり一同を迎えてくれた。午前10時、神殿へ移動し結隊式を行う。佐藤隊長から「ひのきしんは生かされている喜びの表れであるから、まずは自身が喜び、現場では地域の方が喜んで下さるといふ二重の喜びを感じて務めたい」とあいさつがあった。その後作業説明があり、大教会からほど近い第一現場へと向かった。ここは支部内教会関係の住宅で、石狩川が目の前にと広がっている。「ゴー」という川の力強い音が響いて



すっぽり住宅を飲み込んだよ

て、屋根には1.5メートルを超える雪が住宅を飲み込んでいた。(ちなみにこの日、旭川市で1棟夕張市で2棟の空き家が雪の重みで倒壊したとニュースで流れていた。)ここもそれに匹敵する程の雪。隊員達は慣れた様子で作業を開始した。はしごを掛け、先発隊員がどんどんと通路を開いて雪下ろしが始まる。しばらくすると南空知支部隊直伝の手作りスノーシューターを設置し、一段とスムーズに雪が下ろされていった。下ろされた雪は、屋根の下に待機しているタイヤショベルが、何度も押し運んで空き地へと積み上げる。タイヤショベルのオペレーターは西垣喜一雨龍大教会長が担当。他に軽トラック2台も機材として準備されていた。午前の作業でこの現場を辛うじて終え、近所の方々に建物倒壊などの心配をかけないようにして、現場を引き上げた。

こうした活動について 松下支部長に何うと、「10年ほど前に天龍支部ひのきしんクラブとして深川市社協に登録したことが発端で、以来、こうした徐排雪の現場を紹介してもらえようになった。また、夏は留萌市の特老萌寿園の草刈りも行っている。コロナ禍の昨夏も、何とかお願いしたい、との要請に応えさせてもらった。支部活動は中々、目に見えてこないものだが、こうした作業は効果がハッキリ見えて喜びや励みになると思う。そうしたことで、支部内の教友同士の繋がりが一層強まり、他の活動にも活かされてくると実感している。」と語った。

午後からは深川駅北側に移動して次の作業となる。現場にはすでに市社

協橋本真（まこと）事務局長が待ち受けていた。早速、説明を受け、独居老人宅の除排雪が開始された。玄関先の氷をツルハシで割り、住宅周りの雪をスノーダンプで運んだ。橋本氏は「長年、ひのきしん隊の方々には大変お世話になっている。こうした活動を通し関係が深まり、無理なお願ひも受けていただいている。今後ともよろしくお願ひしたい。」と感謝を述べた。しばらくしてここでの作業を終え、雨龍大教会へと戻り、残された時間を教会周辺の除排雪を2トダンプやタイヤショベル等を使って行い、今回の全作業を終了した。



松下支部長（左）と活動の確認をする、橋本事務局長（右）



市内教会除雪後（左）



玄関も埋まるほどの大雪（右）

**続報**  
**南空知支部隊**  
天理時報（2月28日号）、災救通信前号で報じられた通り南空知支部隊（寺澤信彦隊長）では1月17日三笠市での除排雪出動後、1月31日、毎年実施している岩見沢市内の教会で午前10時から屋根の雪下ろしを中心に除雪作業を行った。この日は隊員17名が作業にあたり、午後4時



立山黒部アルペンルートのような歩道。支部内教会付近（北）

**三笠市社協より再要請**  
2月1日には再び三笠市社協から要請をうけて除排雪作業を行う。  
午前9時半、市社協にて細川良昭市社協会長よりあいさつがあり諸説明後、3班に分かれて作業を行った。この日は一般の社会貢献事業の方々も作業に携わった。午前中に住宅1

まで時間を要し、無事作業を終えることが出来た。

軒、午後からは一般参加の方々と共に市内福祉施設の除排雪を行った。この現場は午後2時半で作業を終え、3時に一旦解散し社協からの要請を完了した。その後、有志が支部内教会の屋根や玄関周りの除排雪を行い午後4時半、全作業を終了した。この度の参加者は千恵広、札幌中南支部隊長が再応援に加わり、13名が参加した。

なお、作業の様子は翌日（2月2日）発刊の北海道新聞岩見沢南空知版で掲載された。



←住宅を飲み込んだ豪雪。

**災救隊結成50周年記念大会について**

詳細発表は3月末となります。支部隊長、スタッフへはラインにてわかり次第連絡します。

**室蘭支部  
災害対策委員会報告**

室蘭支部（岡崎秀人支部長）では、昨年8月3日支部災害対策委員会を立ち上げ、これまでに9月30日、10月30日、更に11月13日、12月28日と洞爺湖町関係者と共に支部として、主に有珠山噴火に伴う有事における対応や準備等の確認を行ってきた。更に今年に入ってからは1月31日支部内にて、2月19日は役場関係者と共に対策委員会を開催し、特に発災直後の情報伝達についてと支援の方法を細部に亘っての確認を、洞爺湖町役場において行った。

2021年(令和3年)2月2日(火曜日)  
2階の屋根近くまで積もった雪を下ろすボランティア

**除雪 高齢者らの力に  
三笠で50人ボランティア**

「三笠 大雪で困っている市民を助けよう、新桂沢タムの建設工事に当たる共同企業体（JV）が4団体の約50人が1日、高齢者宅など市内6カ所でボランティア除雪をした。

鹿島・岩田地崎・伊藤特定建設工事共同企業体新桂沢タムJV工事事務所、幾春別川タム建設事務所、電源開発、天理教ひのきしん隊が、市社会福祉協議会にボランティアを申し出た。

高齢者宅5軒と、障害者が通所する「ななま」と共が通所する「ななま」と共同作業所」で作業。2階の屋根近くまで積もり、屋根からせり出す雪庇とくっついてしまった住宅もあり、バックホーなどの重機も出した新桂沢タムJV工事事務所の中村元郎所長は「今季は雪が多く、除雪が追いついていないのを見て、少しでも力になればと思う」と話した。

住宅敷地の除雪をしても

短歌  
美唄歌人会  
わかおかみくちまゆや  
やざおとこひんもちま  
にしんゆひのまほ  
すずきしげる  
小川 賢一  
落日は樹間に落ちるたちまち  
に病む言に残すらのむらさ  
き  
今日も過ぎまた繰り返す朝が  
来て等身大になれぬ生きま  
き  
割れ欠けたコップのひびの端  
つが割れたがるのでゴミの  
日に投げた 寺門 史恵  
…長沼短歌同好会…  
身体中のボ知る「義母がも  
みくれ」の腕疼く今日三回  
忌  
身長の伸びた孫から背くらべ  
をせがまれ勢も背中合わせ  
中本千津子

受講生随時募  
http://www.doshin-c  
札幌道新文化  
札幌市中央区大通西3-6 道新  
tel.(011)241-0123 道新文化センター  
電話予約 平日9:30-19:00、土曜9:30-1